



NEWS RELEASE

一般社団法人 日本IR協議会
〒101-0047 東京都千代田区千代田1-6-6 MIFビル9階
Tel:03-5259-2676(代表) Fax:03-5259-2677 <http://www.jira.or.jp>

2016年11月14日

第21回「IR優良企業賞」発表

一般社団法人 日本IR協議会（会長・隅修三 東京海上ホールディングス株式会社取締役会長）は、このほど2016年度IR優良企業賞受賞企業を決定いたしました。

「IR優良企業賞」（審査委員長・北川哲雄 青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科教授）は、IRの趣旨を深く理解し、積極的に取り組み、市場関係者の高い支持を得るなどの優れた成果を挙げた企業を選び表彰することを目的としており、今年で21回目を迎えます。今年の受賞企業には、以下のような特徴があります。

- 経営トップが積極的にIR活動に関与し、経営層の理解や関係部門の協力体制も整えて、たとえ業績が跛行局面に入っているとしても質が高く安定感のあるIR活動を続けている
- 投資家との対話を経営戦略の策定などに活かした上で、資本生産性や効率性に関わる長期目標を明示するとともに当該企業の経営ステージに即した説得性のある企業価値向上プロセスを説明している
- 経営の監督などコーポレートガバナンス全体の考え方、枠組みを策定した上でIR活動において公表し、ESG（環境・社会・ガバナンス）情報など非財務情報の発信も工夫して、個人を含めた株主・投資家の理解を深めようとしている

北川審査委員長は、「コーポレートガバナンス・コードが導入されて1年半が経ち、今回IR優良企業に選ばれた企業はいずれも資本市場との対話をさらに充実させている。またESGなどの非財務情報を活用して企業価値の創造ストーリーを市場に説明するよう努め、市場からの高評価を得た。自ら考え抜いたガバナンスポリシーを作成し公表している企業も多い。奨励賞受賞企業のIR姿勢も高く評価されている」と語っています。

審査対象は、日本IR協議会の会員企業のうち株式を公開している企業で、2016年の応募企業は258社となりました。受賞企業は下記の通りです。IR優良企業大賞2社、IR優良企業賞7社、IR優良企業特別賞3社、IR優良企業奨励賞2社の合計14社でした。受賞企業の本選理由とこれまでの受賞歴は、別紙に記載しています。

I R優良企業大賞 受賞企業（社名 50 音順）

住友金属鉱山株式会社
東京海上ホールディングス株式会社

I R優良企業賞 受賞企業（社名 50 音順）

S C S K株式会社
カルビー株式会社
株式会社小松製作所
J. フロント リテイリング株式会社
塩野義製薬株式会社
日本精工株式会社
富士重工業株式会社

I R優良企業特別賞 受賞企業（社名 50 音順）

いちご株式会社
参天製薬株式会社
株式会社丸井グループ

I R優良企業奨励賞 受賞企業（社名 50 音順）

株式会社すかいらーく
株式会社西武ホールディングス

各賞の概要は下記の通りです

I R優良企業賞

日本 I R協議会の会員でかつ、株式を公開している企業を対象に、毎年選定・表彰しています。

I R優良企業大賞

過去 2 回 I R優良企業賞を受賞し、3 回目も受賞に値すると評価された企業を表彰しています。2005 年より表彰をスタートさせました。なお、受賞翌年から 2 年間は「I R優良企業賞」の対象から除外されます。

I R優良企業特別賞

I R優良企業賞に応募した企業のうち、継続的に I Rのレベルを高めている、業界のリーダーとして I Rに積極的である、個人投資家向け I Rの評価が高い——企業など、活動内容に特徴の見られる企業を表彰しています。2005 年より表彰をスタートさせました。

I R優良企業奨励賞

I R優良企業賞に応募した企業のうち、新興市場・東証 2 部の上場企業、および東証 1 部上場企業であって新規に株式を公開後 10 年目以内の中小型株企業の中から表彰しています。2002 年より表彰をスタートさせました。

I R優良企業奨励特別賞

I R優良企業奨励賞に応募した企業のうち、「奨励賞」受賞企業とほぼ同等と評価された

企業、今後の展開が期待される企業、ユニークな取り組みが評価された企業があった場合に表彰することとします。2011年より新たに表彰をスタートさせました。

審査方法は3段階で、下記のとおりです

- ①応募企業が提出した「調査票」の結果をもとにした第1次審査（229社が第2次審査へ進出）
- ②審査委員のうち、証券アナリスト、機関投資家、ジャーナリストなどの専門委員14名がIR優良企業賞審査対象企業207社、奨励賞審査対象企業22社を評価する第2次審査
- ③専門委員による第2次審査をもとに、学術経験者、弁護士等も加わった審査委員全員による最終（第3次）審査

表彰式（「IRカンファレンス2016」のプログラムのひとつとして開催）

2016年12月15日（木）午前11時50分から、ベルサール東京日本橋で開催する予定です。

問い合わせ先： 一般社団法人 日本IR協議会 事務局

TEL：03-5259-2676 FAX：03-5259-2677

日本IR協議会とは：1993年設立のIR普及を目的とする非営利団体。会員数は571

（2016年10月1日現在）、主な活動はIRの研修活動、調査・研究、企業間の交流など。

<https://www.jira.or.jp>

【別紙】受賞企業の主な選定理由と受賞歴

I R優良企業大賞 受賞企業（社名 50 音順）

住友金属鉱山

（2013年・2011年 I R優良企業賞）

経営トップが継続して投資家と向き合い、対話の結果を踏まえて経営戦略を策定・説明している。同じ業態の上場企業が少ない中、I R部門は経営や事業の理解を深めるために詳細な資料を作成したり、施設見学会や事業説明会を開催したりするところに評価が集まっている。事業環境が厳しくなっても情報開示の姿勢は一貫しており、取材対応や投資家訪問数も増加している。非財務情報を活用した株主との対話や、ESGを重視した統合報告書の作成意欲も高い。

東京海上ホールディングス

（2014年・2010年 I R優良企業賞、2008年 I R優良企業特別賞）

経営トップが I R活動を率先して実行し、その発信力を高めている。グローバル企業としての経営戦略が明確で、海外事業戦略や資本効率向上へのロードマップ、事業説明会の内容がわかりやすい。I R部門は、詳細な資料作成や経営層と投資家との対話設定に取り組み、投資家の声のフィードバックを経営に活かしている。個人投資家向け I Rも充実させており、経営トップが登壇する説明会や全国での説明会、ウェブサイトを通じた情報発信を強化している。

I R優良企業賞 受賞企業（社名 50 音順）

SCSK（初受賞）

経営トップが積極的に I R活動に参加する姿勢や、CFOによる論理的な説明への評価が高い。経営層は、事業構造の転換と成長分野へのシフトなど明確な経営ビジョンを提示し、充実した対話を続けている。I R部門は環境が変化しても情報開示のレベルを継続し、新たに始めた事業説明会も評価されている。ESGに関わる「働きやすい職場、人を活かす会社」を実現するための職場環境の改善への取り組みなどへの注目も高い。

カルビー（初受賞）

経営トップの情報発信力が極めて高く、自分の言葉で率直に語っている。トップは投資家と向き合う機会を定期的に設け、経営課題を含めて対話を実行している。I R部門も経営層の考えを十分に理解し、経営戦略についての有意義なディスカッションを投資家・アナリストと続けている。施設見学会や事業説明会なども積極的に開催し、社外からのアクセスもよい。自社のコーポレートガバナンス・コードを策定し、わかりやすく表明する取り組みも高い評価を得ている。

コマツ（小松製作所）

（2010年 I R優良企業大賞、2013年・2008年・2007年 I R優良企業賞）

広くステークホルダーと対話し重視する姿勢は、持続的な成長という観点で投資家が高く

評価している。IR部門は、投資家が求める情報をわかりやすくタイムリーに示すための改善を続けており、取り組みには定評がある。特に事業環境が厳しい中、経営トップによる中長期戦略の丁寧な説明や、工場見学、事業説明会を開催したことへの評価が高い。2010年の大賞受賞後の2回目の優良企業賞であり、レベルの高いIR活動を続けている。

J. フロント リテイリング（初受賞）

経営トップのIR活動に対する意識が高く、全社に浸透していることがうかがえる。経営層の姿勢と説明力に加え、経営戦略の納得性が高い点も評価されている。IR部門の陣容は充実しており、アクセスも良い。株主総会の議案検討時間の確保や情報開示の充実などのガバナンスに関する取り組みも機敏であり、開示の公平性確保にも努めている。ファクトブックやアニュアルレポート、決算説明補足資料など、IRツールも充実している。

塩野義製薬

（2015年IR優良企業賞、2014年IR優良企業特別賞）

経営トップは投資家との対話を重視し、IRを企業価値創造に結びつけている。医薬品を製造する会社として社会的課題に対して積極的に取り組み、それを社会貢献と企業価値創造につなげようとする一貫した姿勢が見られる。経営戦略は明確で説得力があり、自社の競争優位性を支える創薬力を丁寧に説明する姿勢にも評価が高い。近年IRに対する評価が高まっているが、今年はさらに活動を充実し、連続受賞につながった。

日本精工（初受賞）

四半期決算ごとの迅速な情報開示姿勢や、詳細な資料に対する評価が高い。事業内容やBtoB企業ゆえのビジネスモデルのわかりにくい点についても、資料の充実や分析に役立つデータ発信で補っている。経営トップもオープンな姿勢で投資家と対話し、説明は常に明解である。IR部門は適切な情報開示を心がけ、アナリスト・機関投資家の取材や個人投資家からの質問などに丁寧に対応している。近年、IRの評価が高まり、ESG情報開示への期待も大きい。

富士重工業

（2013年IR優良企業賞）

経営トップやCFOなどの役員が、投資家や資本市場関係者の関心を深く理解し、中期経営計画の進捗や株主還元に関して的確に説明している。成長戦略や資本戦略も明解で合理的である。自動運転技術や次世代プラットフォームなど、投資家の関心が高い分野について説明会を開くなど、IR部門がきめ細かく対応する活動も評価が高い。ウェブサイトを活用した迅速な情報発信も充実させており、公平な情報開示に努める姿勢を表している。

IR優良企業特別賞 受賞企業（社名 50音順）

いちご（初受賞）

事業モデルが変化し、事業内容の複雑さが増している中でも経営トップを中心に企業価値向上と結びつけて説明することに努めている。こうした投資家や資本市場関係者の理解を

深めようとする姿勢が高く評価できる。IR部門長が役員として多様な数値情報を把握しており、質問に対する回答が迅速で明解である。事業セグメント数が多いものの、各担当役員が臨機応変に対応しており、会社を理解してもらおうという努力を継続的に続けている。

参天製薬（初受賞）

経営トップは、投資家や資本市場関係者の声を経営に活かすことに努めている。戦略の説明はわかりやすく、その一貫性も高く評価されている。IR活動の近年の進展は目覚しく、IR部門は熱心に改善に取り組み、半年ごとに更新するデータブックなどは開示項目を投資家の要望を取り入れて充実させている。環境の変化や買収の影響なども積極的に説明しており、持続的な企業価値向上という視点での自社の戦略の説明が明解である。

丸井グループ（初受賞）

近年IRの強化に努め、活動を充実させている。投資家の声に耳を傾け、資本政策をROEやROICなどのKPI（重要業績評価指標）を活用して納得性を高めている。IR部門は説明会資料をわかりやすく改善し、事業の詳細やESG関連の説明会を開催するなどの活動も進めている。「MARUI IR DAY」の開催や「共創経営レポート」作成、さらに統合報告書説明会の開催など、独自性を意識した活動に対する評価も高まっている。

IR優良企業奨励賞 受賞企業（社名50音順）

すかいらーく（初受賞）

2014年10月に上場後、戦略を明解に説明する姿勢が注目された。アナリスト・機関投資家向け説明会をはじめ、2015年には、のべ400件を超すミーティングなどを開催し、資本市場との関係構築に努めている。IR活動の中では、特に店舗の動きを中心にした資料におけるデータ分析に優れ、情報開示の姿勢も評価が高い。IR部門はアクセスも良好で対話力に評価を得ている。アナリストカバー数も大幅に増加している。

西武ホールディングス（初受賞）

2014年4月に上場し、鉄道事業とホテル事業を中核とする。IR部門は特にホテル業界について積極的な情報発信を実施し、インバウンド（訪日外国人）に関するテーマの理解に役立つ活動を強化している。また、事業部門の責任者が出席する小規模なミーティングを開催するなど、よく練られたIR活動に対する評価も高い。IR部門の人数が少ない中、投資家とのコミュニケーションを活性化することによって理解促進につなげている。

以上